

UNESCO World Heritage Marine Site Managers Meeting 概要報告(未定稿)

1. 会議の目的

43の海洋の世界遺産地域の管理水準の向上のため、管理者同士で面識を持ち、情報共有を促進するきっかけとする。特にそれぞれの地域での課題に対する成功体験について情報共有をする。また、ユネスコの世界遺産海洋プログラムにて作成するアクションプランのドラフトとする。なお、今回が第1回目の会議となる。

2. 開催期間・場所

2008年12月1日(水)～3日(金) ホノルル(アメリカ)

3. 会議の概要

＜遺産地域からの事例報告＞

①イシマンガリソ湿原公園 南アフリカ

農場や開発による悪影響が発生しており、統合的な保全と開発に係る計画を作成した。例えば道路については、主要な観光利用、地域コミュニティ利用、公園管理による利用に分類し、配置を行った。商業用の森林や外来種の除去などのエリアも特定を行った。統合的な計画→個別計画→地域計画という体系を確立した。地域に対しては、遺産地域の管理に関する仕事の供給、食糧の補助、教育などの支援を実施した。

②トゥバタハ岩礁海中公園 フィリピン

生物多様性の保全のために、97,000haの禁漁区を設けているが、違法な漁業も存在する。年間に1,200人の利用者があり、環境保全と船舶使用に関する料金をそれぞれ徴収している。利用者からの入域料により、公園管理のための予算のおよそ50%を確保している。また、観光利用を規制するためのゾーニングや、利用者や漁業者に対する普及啓発を実施している。海洋汚染や気候変動による悪影響も懸念されており、調査研究とモニタリングを推進している。

③スカンドーラ自然保護区 フランス

科学的な助言に基づくモニタリングを実施している。特に、漁業による過剰な資源利用を防止するため、漁業もモニターしている。商業種については、持続的な利用を推進するため、養殖を実施するとともに、調査研究も推進している。

④マルペロ動植物保護区 コロンビア

4カ国の共同により管理を行っており、地域会議や技術会議等の会議が設置されている。4カ国の法規制に関する基本的な管理に係る文書が存在し、様々な会議の開催、

ネットワークの構築、管理能力の向上、各種事業や調査研究などを行っている。例えば、当該地域に生息するサメは4カ国の国境を越えて移動することが分かっており、多国間による管理が重要である。沿岸諸国も含めた持続的な漁業の推進の取組、調査研究もなされている。また、PSSAに指定し、効果が上がっている。

⑤グレートバリアリーフ オーストラリア

アウトルックレポートを作成し、多くの利害関係者に読まれている。レポートでは影響要因や研究の結果とそれに対する対策を記載している。気候変動や違法な漁業、陸域の開発などが主な影響要因として挙げられる。アウトルックレポートでは、リスクマトリックスを作成し、発生可能性と影響の大きさから、様々な影響要因のリスク評価を実施している。その他、観光業界との協働や地元の学校における環境教育、地元漁業者との連携などの取組を実施している。

<海洋空間計画(Marine Spatial Planning)>

既存の海洋に関する計画は、さまざまな分野やセクターにおいてそれぞれの目的に基づいた計画が作成されているが、海洋空間計画は生態学的な観点と経済学的な観点による分析により、統合的な海洋の空間計画を作成するもの。空間計画の作成にあたっては、生態系ベースの管理(Ecosystem Based Management)が重要であり、陸域と海域の管理の統合も検討すべき。空間計画は体系的に当該地域の将来像を検討するために有効であり、目標と指標を設定しモニタリングすることが必要となる。海洋空間計画においては生態系の保全はあくまでも目標の一つであり、地域のボトムアップによる検討が求められる。

<個別セッションなど>

それぞれの遺産地域が抱える管理上の課題と成功体験、5～10年後に目指すべき方向について、資源管理、プランニング、ガバナンス、マネジメントの4項目に関して報告を行った。紹介のあった成功体験としては、PSSAの導入、学校教育における啓発の実施、遺産区域外におけるバイオスフィアアプローチの導入、統合的な管理計画の作成、国境を越えた管理の実現など。その後、重要な課題や成功体験を特定したうえで、目指すべき方向を達成するために、重要なスキルや知識、効果的な実施に必要な事項、それぞれの地域や世界遺産海洋プログラムの役割などについて議論がなされた。これらを基に、今後アクションプランの作成が進められるものと考えられる。

今後の重要な課題としては、気候変動、資源管理、管理者能力の向上、科学的知識の活用、普及啓発、国際的な倫理の向上などが挙げられた。

その他、質疑や議論における参加者からの提案としては、「エコツーリズムの戦略は重要であり、利用者による入域料は予算の一部を担うことが可能。それに伴い、遺産地域の社会的な価値の研究はこれまであまりなされてこなかったが重要である。NGOやボランテ

ィアも管理にとっては重要である。漁業者はモニタリング等も担える可能性がある。遺産地域で気候変動に対するグリーン技術の試行も必要。」等があった。

4. その他

参加者からは、非常に有益な機会であり、今後とも継続を望む意見が多数を占めた。今後の会議予定などは未定であるが、取組は継続するものと思われる。また、遺産地域に影響を及ぼしている影響要因とその解説、および遺産地域の管理の現状を記述し、ユネスコに提出した。なお、ユネスコにおいて今回の会議のレポートが作成される予定。